アメリカの国立公園

萬年一剛（神奈川県温泉地学研究所）

1. はじめに

私の知人に世界中で火山や珍しい地層の写真を撮っている写真家がいます。私が、世界中でどこの国の風景が、写真を撮っていて楽しいかを尋ねたところ、その方は、アメリカ合衆国だと答えてくれました。私は 2010 年 3 月末から一年間、神奈川県を休職してアメリカ合衆国に留学したのですが、それまでにアメリカ本土を旅したことは一度も無く、その答えにピンと来ませんでした。世界にはもっとアクセスするのが難しい秘境があるでしょうし、そういうところに撮影に行っている人が、よりによって日本にとってもっとも身近な国の一つであるアメリカをベストに挙げるなんてちょっと信じられない気分でした。

私の留学先はフロリダ州タンパ市にある州立の南フロリダ大学という所でした（図 1）。私の専門は火山で、この大学を留学先に選んだのも有名な火山学の先生がいるからなのですが、残念なことにフロリダは火山が古い時代のものも含めて全くなく（正確には、地下数キロメートルの所に大西洋が割れてヨーロッパ大陸と分離したときに出た溶岩があるそうですが、地表はサンゴで出来ているので皆無）、火山を見るという面ではあまり良いところではありませんでした。

しかし、せっかくアメリカに来たのだからアメリカの火山を見に行こう、そしてついでにアメリカ各地の地学的見所を見てしまおうというわけで、大学の夏季休暇を利用してアメリカ横断のドライブ旅行に挑戦しました。そこで立ち寄った感激したのがアメリカの国立公園でした。

図 1　アメリカの地図。本文中で出てくる場所を示した。NP は国立公園 (National Park) の略。

2. アメリカドライブ旅行のススメ

アメリカは日本の約 25 倍の面積がある非常に広い国なので、公共交通手段は飛行機が中心です。飛行機は会社間の競争が激しく、料金はかなり安いのが普通です。季節や乗り継ぎの有無によって変わりますが、たとえば、フロリダはアメリカの東の端ですが、西の端のカリフォルニアに飛ぶとしても往復 400 ドル程度です。

鉄道は一応ありますが、長距離路線の Amtrak は時間がかかる上に遅延が頻繁で、料金も飛行機より高いケースが多く、アメリカ人の間では趣味の乗り物といった扱いです（しかし、実際に乗ってみると楽しいです）。アメリカ人にとって旅行というと、飛行機の次に思いつくのは自家用車です。

アメリカ人みんながそうだとは言いませんが、長距離ドライブに抵抗がない人は非常に多いです。どういうときに自動車で移動するか見ていると、まずは荷物がたくさんあるときでしょう。地質学科の人たちは重い機材や岩石と一緒に移動する必要がありますが、飛行機では追加料金がかかるので自動車のほうが安上がりです。また、引っ越しの時にも当たり前のように車を使います。アメリカでは牽引式のコンテナを貸し出す会社があり、家財道具を詰め込んだコンテナを自家用車で牽引して

引っ越しをしているのをよく見掛けます。

アメリカでは州間高速道路（Interstate Highway）が縦横にめぐらされていますが、ごく一部の区間を除いて通行料金はかかりません。また、ほとんどのインターチェンジにモーテルとファストフード店がかまえているので、宿泊や食事に困ることはありません。モーテルはピンキリですが、だいたい 60 ドル程度の部屋でほとんど問題なく、しかも一つの部屋に何人泊まっても良いので、安上がりです。100 ドル以上出せば日本の高級ホテルと同等の部屋を利用できます。

道路は広くて、カーブやトンネルもほとんど無く、無謀なドライバーも都市部を除けばいないので（無謀な運転をしていたら疲れてしまう）、日本よりは格段に運転がしやすいです。車を運転すれば、アメリカ中どんな田舎でも行くことが出来ます。ドライブ旅行で皆さんにぜひ楽しんで欲しいのが、私の感動したアメリカの国立公園です。

3. アメリカの国立公園

3.1. 特徴

アメリカが世界に自慢できることは２つある、一つは美しい大学のキャンパス、もう一つは国立公園、という言葉があるとアメリカ在住の日本人から聞きました。誰が言ったかわかりませんし、アメリカの人たちが自慢できることは他にもあるように思いますが、国立公園がすばらしいのは確かで、その管理運営は世界中のお手本となっています。

アメリカの国立公園は自然のもっともすばらしいところを、できうる限り保存しつつも、アクセスを容易にするということを目標としており、これが、アメリカの国立公園を世界一の水準にしています。

写真１　国立公園の入口ゲート（エバーグレイズ国立公園）

保存の面で言うと、アメリカの国立公園はすべてが国有地であるということが第一の長所と言えるでしょう。日本の場合、国立公園内でも私有地の割合は高く、全国で 26%、私のフィールドである箱根地域では 66% にも達します。アメリカの国立公園は国立公園局（National Park Service; NPS）が土地を所有している上に、管理も全面的に行っています。対して日本の場合、国立公園内の国有地のほとんどは国立公園を所管する環境省の管理ではなく、林野庁所管の国有林です。

全部が国有地というのは、適切に保存するうえでは最適だと言えます。アメリカの国立公園は国有地なので、園内には民間のホテルや土産物屋がありません。園内のこうした施設はすべて国立公園局が設置し、運営を民間に委託しているので、日本の観光地にありがちな趣味の悪い建物や看板は皆無で、全体に落ち着いた雰囲気になっています。また、ホテルや土産物屋が極めて限られていることは、結果的に、物見遊山的な観光客を排除して、自然を愛する人の適切な利用を促しているように思います。

アメリカの国立公園は基本的に地形や地質がすばらしいということに加えて、手つかずの自然が残っている地域が指定されています。たとえば、ナイアガラの滝などは非常に特異な地形で有名ですが、周辺の開発が進んでいることから、国立公園には指定されていません。

手つかずの自然というと要するに僻地にあります。しかし、僻地と言ってもほとんどの国立公園は自家用車を使ってアクセスすることができ、園内も観光道路が整備されています。こうした道路は自然保護に配慮しつつも、最も優れた景観を楽しめるように設計されていると言います。景観を楽しめるように道路を設計しているという事例は日本ではあまり聞いたことがありませんが、どうでしょうか。

アメリカの国立公園は一般の人が利用できるのは園内総面積の数パーセントで、他は厳密に保護されています。道路やトレッキングコースから外れることは禁止されています。

写真２　国立公園のキャンプ場。各キャンプサイトは舗装道路に面しているのが一般的（アーチーズ国立公園）

3.2. 利用の仕方

アメリカの国立公園は基本的に車で訪れることが前提となっています。公共交通機関によるアクセスはほとんど無いので、日本から訪れる場合はレンタカーを利用するか、ツアーに参加するかのいずれかになるでしょう。国立公園の入り口にはゲートがあり、入場料を徴収されます（写真１）。入場料は公園により異なり、私の訪れたのは車一台あたり 20 ドル前後のところが多かったですが無料の公園もあります。年間パスが80ドルで売られているので、行く公園の数が多ければ年間パスを購入した方が得です。ゲートで入場料を徴収しているのはパークレンジャーの人で、その国立公園のマップをもらえるので、必ずもらっておきましょう。

アメリカの国立公園は非常に広いので、公園内に宿泊するのがベストですが、ホテルは数が非常に限られており、もっとも人気がある国立公園の一つであるヨセミテでも数軒しかありません。従って、予約はかなり難しいのが現状です。ツアーであれば宿泊に困ることはないでしょうが、個人で行く場合公園内に予約が出来ない場合は、近くのモーテルを押さえるということが必要です。

しかし、私としてはキャンプで国立公園内に宿泊することをお勧めします。

3.3. 国立公園のキャンプ

キャンプというと、隣のサイトとの距離が近すぎたり、トイレやお風呂が汚かったりと、あまり良いイメージを持っていない方が多いかも知れません。かくいう私もそうなのですが、アメリカのキャンプ場はかなり違います。特に国立公園のキャンプ場は、広々としているので隣の人が気になることはほとんどありません（写真２）。普通は水洗トイレが完備されています。シャワーもある場合が多く、ゴミを持ち帰る必要もありません。キャンプ場には巨大なゴミ箱が設置されているのでそこに捨てれば良いのです。何しろ料金が一泊数ドルから二十数ドルとお手頃なのがありがたいです。

キャンプ場には車でアクセスでき、各キャンプサイトには駐車場、ファイヤープレイス、ピクニックテーブルがついています（写真３）。人気のある国立公園、たとえばグランドキャニオンやヨセミテなどではキャンプ場でも予約が難しいこともありますが、そうでもない国立公園ではふらっと立ち寄ってみてもキャンプ場に空きがあることがあります。行きたい国立公園と日程が決まっていれば、オンラインで予約すれば安心でしょう（http://www.recreation.gov/）。

ヨセミテやグランドキャニオンなど来園者が非常に多い国立公園内にはスーパーマーケットまであるので、手ぶらで行っても何とかなりそうですが、品切れだったりしたら公園の外の遙か遠い町まで買いに行かなければいけないので、必要なものは事前に準備して持ち込むのが良いと思います。

3.4. ビジターセンター

アメリカの国立公園に着いたら、まずはビジターセンターに立ち寄るべきでしょう。ビジターセンターは普通ゲートの近くか、ホテルや売店などが集中しているビレッジなどと呼ばれる場所に併設されています。

ビジターセンターの設備はピンからキリまでですが、展示内容は一般にわかりやすい上､ハイレベルです。普通は、映像シアターがあり、ここでその国立公園の概要や、四季、地質、動植物をざっと把握できる 15 分前後の映画が見られます。展示はさながらミニ博物館で、動植物や岩石の標本、各種パネル類があります（写真 4）。

ビジターセンター内ではブックストアやインフォメーションがあります。ブックストアは本の他、双眼鏡や帽子、T シャツなどのプレミアグッズが売られています。インフォ

写真３　キャンプサイトの施設。なお、テントは自前（グランドキャニオン国立公園）

写真４　ビジターセンターの展示。ここではグランドキャニオンの各地層の年代とその時の様子の想像図が展示されている（グランドキャニオン国立公園）

メーションではパークレンジャーが色々な質問に答えてくれます。

3.5. ガイドツアーとレクチャー

パークレンジャーは質問に答えるだけではなくて、ガイドツアーやレクチャーもしてくれます。ガイドツアーではパークレンジャーが来訪者と一緒に園内のトレッキングコースを歩いて動植物や地質について現場で教えてくれたり、ビューポイントからの地形を解説してくれます（写真 5）。レクチャーは昼間の場合もありますが、ゆっくりとした気分で見られるのは夜 7 時前後から始まるものです。これはキャンプ場の中にある野外講義場（amphitheater）でパークレンジャーがスライドをみながら、園内の見所や、自然、歴史などについて解説をしてくれます（写真 6）。こういう教育系のパークレンジャーは何らかの専門家なので、専門分野には大変詳しく、またいつもこういう催しをしているので話がうまいです。夕方の時間、ゆっくりと野外でレンジャーの話に耳を傾けるのは、キャンプ泊ならではのリラックスタイムと言えます。こうした活動の日程や参加方法はビジターセンターの掲示板に案内があります。

3.6. ジュニアレンジャープログラム

アメリカの国立公園は子供向けのレクチャーやツアーも充実していますが、お勧めなのはジュニアレンジャープログラムへ参加することです。ジュニアレンジャープログラムとは、公園によって違いますが、年齢に応じて決められた指定の課題を仕上げるとジュニアレンジャーとして認定され、宣誓の後にジュニアレンジャーバッチが授与されるというものです（写真７・８）。

課題は、ビジターセンターでもらえるジュニアレンジャープログラムのノートにある質問に答えたり、スケッチをしたりと言ったもので、だいたい 1 時間以内にこなすことが出来ます。その他、子供向けのワークショップやレクチャーに参加するという課題が課される場合もあります。私の子供（当時 9 歳と 6 歳）は英語がほとんど出来なかったので、初めのうちは参加しようと思っていなかったのですが、子供向けの昆虫採取ワークショップに参加してバッチをもらったら、にわかに燃えはじめ、以後訪れる国立公園ではほとんどジュニアレンジャープログラムに挑戦するようになりました。なお、ジュニアレンジャープログラムは特に年齢制限がないので、大人で

写真５　パークレンジャーによる現地解説（ブライスキャニオン国立公園）

写真６　キャンプ場にある野外講義場（マウントレーニア国立公園）

もチャレンジしてバッチをもらうことが出来るそうです。

4.　国立公園局

4.1.　広い守備範囲

アメリカの国立公園は国立公園局が担当していると書きましたが、国立公園局は国立公園だけを担当しているわけではありません。その他の担当としては、国立公園のレベルには及ばないものの保護を要するナショナルモニュメント（National Monument）、アメリカの歴史上重要な場所が指定される国立歴史地区（National Historic Site）などがあります。例えば、首都ワシントンの中心にある広大な公園、ナショナルモール (National Mall) も国立公園局の管轄で、国立公園で見るのと同じ制服に身を包んだレンジャーさんがパトロールをしたり、観光客に解説をしたりしています。こうした国家的に重要な公園以外に、古城（アメリカにも城があるのです！）や戦艦と言った戦争の記録や、公民権運動で先頭に立ったキング牧師の生家も国立公園局が管理しています（写真９）。アメリカの自然遺産、歴史遺産は国立公園局が管理している、といっても過言では無いでしょう。神奈川で言ったら、小田原城や記念鑑三笠も国立公園局が管理しそうな物件です。

国立公園局は現在、58 の国立公園を含む 397 件の対象を管理しています。

4.2.　厚い人材

国立公園局は連邦政府に属しますが、日本的な感覚からは非常に大きい組織で、従業員は 28,000 人におよびます。ちなみに、日本で国立公園を所管する環境省は省全体でも 1200 人弱、パークレンジャーにあたる自然保護官は 200 人程度とかなり貧弱です（ちなみに、日本の政府機関は先進各国の中ではかなり小ぶりで、人口あたりの公務員数でみると、アメリカは日本の 1.8 倍もあります）。

アメリカ人にとってパークレンジャーといえば、制服から仕事内容まで何となくイメージできる存在で、子供のあこがれの職業に挙げられそうな知名度がありますが、日本の自然保護官はどうでしょうか？

実際、日本の自然保護官は事務所内での許認可事務で忙しく、一般の公園利用者の前に出る仕事は多くないようです。こうしたことから、ここ数年は主に野外での業務を中心とする自然保護官補佐（アクティブ・レンジャー）を採用しているようですが定員が 60 名程度と少ないうえに、非常勤なので勤続可能な年数は

写真７　宣誓するジュニアレンジャー（マウントレーニア国立公園）

写真８　ジュニアレンジャーバッチ。バッチの材質はプラスチックであるのがちょっと残念。

著しく短いのが実情です。私も仕事柄､箱根にいらっしゃるアクティブ･レンジャーさんと仕事をすることもあるのですが、やる気のある元気なレンジャーさんがすぐにいなくなってしまうのはとても残念です。

アメリカのパークレンジャーは、高等学校や小学校の先生をしていたという人も多く、学識豊かで生き生きと仕事に取り組んでいるように見えました。国土や人口、管理対象数の差を考慮しても、日本の国立公園は人材面で手薄すぎないでしょうか？

5.　見習いたい自然公園の利用と管理

5.1.　滞在期間と過ごし方

アメリカの国立公園では日本人観光客の姿も見掛けましたが、そういうツアーの忙しいことと言ったらありません。一日に３つの国立公園を回るというグループにも出会いました。これでは国立公園に行ったと言っても代表的なビューポイントから風景を見て写真を撮って、残りの時間はバスに乗りっぱなしなのではないでしょうか。アメリカの国立公園は自動車道路以外にもトレッキングコースが縦横に張り巡らされており、むしろこのトレッキングコースを歩くことが最大の楽しみだと思います。日本人も移動中心の観光はそろそろ控えめにして、もっと悠々とした観光スタイルに移行できないものでしょうか。

また国立公園には１週間以上にわたって滞在するのもアメリカでは普通です。私も最大で３泊くらいしかしなかったのですが、長くいればいるほど様々な魅力があらわれてきます。別に毎日遠くに出歩かなくても、鳥の声を聞きながらキャンプ場でのんびり本を読むのもすばらしい自然体験です。日本の国立公園でもそういう体験は可能なのでしょうが、宿泊代も考えるとそうは言っていられないというのはあります。アメリカのように一泊20ドル前後(しかも一家で！）だと、のんびり滞在しても財布は痛まず､誠に結構です。

5.2.　キャンプ天国アメリカ

アメリカでキャンプしながら大自然に触れられるのは何も国立公園のなかだけではありません。国立公園は自然の中でもとくにすばらしいところが指定されていますが、それ以外でも十分な自然体験が出来ます。

アメリカは州に分かれていますが、どの州にも州立公園（State Park）があり、園内を散策したり、指定箇所でキャンプやバーベキューをすることができます。また、州立公園にも州のパークレンジャーがい

写真９　国立公園局によって管理されているマーチン・ルーサー・キング牧師の生家（ジョージア州アトランタ）。

写真 10　キャップ場を巡視するパークレンジャー（アーチーズ国立公園）

て、規模は小さいですが、ガイドツアーやレクチャーなどの活動をしています。

キャンプに関して言えば、国立公園や州立公園以外にも、連邦林野局（US Forest Service; USFS）があちこちでキャンプサイトを運営しているほか、民間のキャンプ場もちらほらあります。キャンプ場の利用法はどこも似たようなもので、封筒にお金をいれて名前と車のナンバーを書いて入り口のポストに入れるのがおおよその形式です。あとでレンジャーが回ってきて封筒にある車のナンバーとキャンプ場の車のナンバーを対照してお金を払っているか確認に来ます（写真 10）。

アメリカの道路地図にはキャンプ場が必ず載っているので、キャンプ場探しに困ることはありません。また、キャンプ場が満員というのはあまりなくて、夕方の早い時間に入れば大抵空きがあります。キャンプというと体力が要りそうですが、アメリカのキャンプ場は設備が充実しているので、日程に余裕を持たせればきついことはありませんし、屋外が嫌になったらモーテルに泊まれば良いのです。事実、たくさんのシニア世代や小さい子供にキャンプ場で出会うことが出来ます。皆さんもキャンプをしながらアメリカ大陸を回ってみませんか？

6.　終わりに

アメリカは国立公園局の管理する自然遺産や歴史遺産を、アメリカの魅力を形作る重要な観光資源として位置づけています。実際、アメリカの国立公園にいるキャンパーのうちヨーロッパから来ているお客さんはかなりの割合を占め、夜になると英語以外の言葉がたくさん聞かれます。日本も観光立国を目指しているということですが、森林の面積が国土の７割という数字を持ち出すまでもなく、日本の自然は優れているのですから、もうすこし自然公園への投資を充実させる必要があるのではないでしょうか。